

令和2年度の学校評価結果

本年度の重点目標 (課題)	1 学習指導・進路指導の充実により、より高いレベルでの進路実現を目指す。 2 学習との両立を目指し、運動部も文化部も積極的に部活動に取り組む。 3 生徒が自主的、主体的に学校祭などの学校行事に取り組む。 4 姉妹校との国際交流など、国際理解教育に積極的に取り組む。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> 防災体制の整備 PTAと学校の相互理解 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒達の防災意識を高める。 PTAと職員・生徒の風通しを良くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災委員による防災だよりの作成とクラス発表、また、防災講演会での運営を担うなど、積極的に活動した。生徒1人1人の意識を高めるにはさらなる工夫が必要である。 PTA同士も連携がとりづらいうるコロナ禍のもとであったが、前期球技大会でのジュース販売や交通安全下校指導など、学校活動に積極的に関わっていただけた。
学習指導 (教務部)	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図る 授業規律の徹底を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高めるような授業に心がける。 家庭での学習習慣を身につけさせる。 基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。 授業を大切にさせる。 学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期学習指導要領を念頭に置いて、主体的・対話的で深い学びをめざす授業改善に心掛けた。 休校中の課題や動画配信など迅速に対応した結果、休校中の学力確保を果たすことができた。 補助教材プリントやテスト等の活用で、基礎学力の定着を図った。また、発展的な学習に取り組むことにより、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力の育成にも効果があった。 生徒指導連絡票での段階的、組織的な指導を過去数年間継続したことで、授業規律がしっかり守れるようになってきている。 学級担任や学年会など学校全体の取り組みで、落ち着いた環境で授業を行うことができた。
生徒指導 (生徒指導部)	<ul style="list-style-type: none"> 規律正しい生活習慣の確立 いじめの早期発見 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者を減少させる。 身だしなみを向上させる。 通学マナーの向上を図る。 いじめアンケートを有効活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 全学的には減少した。しかしながら、学年によってばらつきがある。遅刻が増えかける、もしくはそれ以前に、きめ細やかな指導をしていく必要がある。 女子のスカート丈の短さや化粧は、以前と比べたら改善されている。年度当初から年度末、入学年次から3年生へと持続的な指導と、一部の教員だけでなく、全教員で指導にあたる体制を整える必要がある。 段階的指導により、個々の生徒に非常に危険な行為をしていたことを理解させることができた。指導件数も減少した。 自転車の並進や道いっぱい広がっての徒歩などはまだ見受けられる。交通ルールを守らせるだけでなく、マナーも向上させる指導も強化していきたい。 アンケート実施により、いくつかの事案が発見された。学年会で積極的な情報共有につながった。 担任の先生等による迅速な対応で、特別な指導に至ることがなかった。
生徒会 (生徒会部)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。 学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。 部活動の活性化を進める。 ボランティア活動への参加を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒議会がクラスへの情報伝達期間となっている。他校の取り組みを参考に、有志の実行委員会設置を検討したい。 意見箱の設置や座談会の開催を通じて生徒の意見を吸い上げる取り組みを行った。生徒に積極的な参加を求めている。 新型コロナウイルスの影響により、学校祭を中止した。生徒への事前の周知が不十分で、生徒の学校生活に対するモチベーションに悪い影響を与えてしまった。 次年度より体育祭を愛知県体育館で実施する予定である。他校の実施状況も参考にしながら計画を進めたい。 球技大会は新型コロナウイルスの対策を講じて実施した。応援の適切な在り方について検討を進めたい。 新型コロナウイルスの影響により、新入生オリエンテーションと部勧誘を中止し、校内にポスターを掲示した。 部長会で部室の環境整備及び活動時間遵守の徹底を呼び掛けた。また、活動状況や部員の参加状況の把握に努めた。 新型コロナウイルス感染防止のため、消毒液やキッチンペーパー等の物品を購入して部室等の消毒を進めた。 部室の消毒や短時間の更衣などの感染症対策を一層徹底するよう、部長会等の機会を通じて促していく必要がある。 PTAの支援をいただき、部活動に必要な物品の購入を進めた。 エコキャップの回収を行った。 あいさつ運動及び災害義援金も募金活動を実施した。エコキャップ回収も含め、生徒の参加意欲を高める方策を検討する必要がある。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導体制を充実させる。 キャリア教育を推進する。 補習、模擬試験を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年の進路検討会は、生徒の個別検討や保護者に際しての意見のすり合わせ等、充実したものになった。1・2年生の進路検討会については実現できていない。今後はまず学年会で情報交換の機会を作っていく。 コロナ禍でインターンシップは、ほぼすべてが中止となった。今後は看護・幼稚園以外の職種への広がりが求められる。また「総合」の時間でのキャリア教育の充実も引き続き検討課題である。 コロナ禍で3年生の模擬試験がすべて校内実施となった。また1、2年生は7月に予定されていた模擬試験は中止となった。1、2年生ともに11月以降に実施された模擬試験はほぼ全ての生徒が参加した。
保健 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の徹底 教育相談体制の充実 ごみ分別の徹底とごみの減量化 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のSTや各授業開始時の健康観察を全職員で行う。 生徒の心身の問題点を早期に発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。 教育相談についての教職員の知識や理解を深める。 ごみ分別とごみ減量について呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「毎月の健康観察のポイント」にそって健康観察の徹底と連絡をお願いした。健康観察の記録も残した。 毎回の担任会での「生徒情報」を、保健室に知らせてもらった。 学年会へ出席して生徒情報交換につとめた。 保健室での面談後、数名をSCに繋げた。 今年度11月にクレベリン検査の解説会を計画していたが、直前に休校措置となったため中止した。他の時期に開催は難しいため、次年度再度計画したい。 ゴミ出し日に集積場で声かけをして減量を呼びかけたが、年度後半になるにつれ、ゴミは微増した。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実 ・読書センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。 ・生徒の図書貸出利用増を図る。 ・読書会の充実を図る。	・生徒のよく利用する小型本を中心に257冊収集し、適切に配架した。 ・貸出数は900冊、授業利用数は261回であり、授業利用数が昨年度より大幅に増加した。 ・本を借りに訪れる生徒は特定の生徒になっている。図書委員による掲示物の作成や生徒の希望する本を収集するなど工夫していきたい。 ・読書会に向けて5回の実行委員会を開き、指導した。例年とは違う形式にはなったが、図書委員や実行委員が中心となり、充実した活動になった。
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際意識を高める	・メントーンガールズセカンダリーカレッジとの交流の継続 ・イングリッシュサマーキャンプの実施 ・中村地球市民教室の実施 ・生徒国際交流委員会の活性化 ・留学生の受け入れ ・JICA訪問の実施 (国際理解コース) ・ベトナム研修旅行の実施 (国際理解コース) ・エンパワーメントプログラム(国際理解コース)の実施	・派遣中止となった。 ・姉妹校担当者と連絡を取り合い、交流の継続を図る。また、コロナに対応した交流の在り方を検討していく。 ・実施せず。 ・来年度は美浜で実施予定だが、感染予防を十分に行い参加者の安全を図る。 ・再来年度からは実施せず、校内研修に切り替える方向で検討する。 ・全生徒の異文化理解、国際的視野育成の場として、今後も継続する。 ・前半の活躍の場が用意できなかった。 ・中村地球市民教室の準備LTにおいて、生徒が主体となって運営できるよう指導した。 ・受入れ時期が延期となった。 ・留学生の評価基準、評価の手順を示すことができた。 ・開発教育について考えさせる良い機会となった。事後アンケートでは生徒の前向きな意見が多くみられた。 ・中止となった。代替行事として生徒の実行委員会が中心となり、校内でベトナム人留学生を招いての交流会を企画した。たいへん実りのある行事となった。 ・来年度は1、2年生で研修旅行を実施予定。 ・春休みに実施予定。 ・感染予防を十分に行って実施する。
第1学年	・基本的生活習慣の確立 ・学習習慣の確立	・遅刻早退欠席をさせないよう、言葉かけ、記録表等を用い生活リズムを整えさせる。 ・規則を理解させ、守らせる。身だしなみに対する言葉かけを普段から行う。 ・時間を守らせ、挨拶をしっかりとさせる。 ・授業を大切にすると雰囲気を作らせる。家庭学習に対する助言を行う。	・早出指導や個別指導が抑止効果をもたらし、遅刻指数は低く推移した。 ・社会情勢を鑑みると欠席数を懸念したが、例年並みであった。 ・今後は個別の対応に加え、全体への働きかけも増やしていきたい。 ・全体集会で現状の問題を共有し、抑止に努めた。指導件数は減少しつつある。 ・全体で集まる際に規則等を徹底させ普段の生活に生かしていきたい。 ・授業開始、学年集会開始時を意識させ普段から指導にあたった。修学旅行に向けて更に意識を高める必要がある。 ・自発的に挨拶ができる生徒が多い。褒めて伸ばしていきたい。 ・課題への取り組みは悪くない。今後は自ら学習に取り組む姿勢を育ていきたい。スタディサブリの活用にも慣れてきた。今後の活用法についても更に検討をしていきたい。
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上 ・中心学年としての自覚の育成	・進路目標を明確にし、達成へ向けて学習を開始させる。 ・考査の結果や模試結果を活用し、自己の実力を正確に認識させ、目標達成に向けて対策を考えさせる。 ・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、その中心となって活動できるよう、指導、助言する。 ・下級生の模範となるよう意識して行動させる。	・コロナ感染症の影響で学校見学や進路行事の中止などの影響もあったが、スタディサブリの活用や適性検査の実施などを行い、進路決定に向けて目標を持たせる指導を行った。 ・体校により、学習に関してのモチベーションを維持することが難しくかったが、模試の結果や考査の結果をもとに面談等を行い、進路や次の考査にむけての課題を持たせるようにした。 ・学校祭や修学旅行の中止、部活動大会の中止など様々な活躍場面が失われてしまったが、修学旅行委員会が集会やクラス運営を行ったり、室長が計画した学年レクを実施するなど生徒主体で活躍できるよう助言をしながらリーダー育成を行った。生徒は前向きに明るく学校生活に取り組もうと努力した。 ・学校行事の中止により、学年を越えた生徒同士の関わりが少なかったが、部活動の場面や球技大会などで中心となって運営した。一部の生徒に身だしなみや行動に自分本位な生徒がおり、今後最終学年として自覚を持った行動ができるよう指導していく。
第3学年	・最高学年としての自覚育成 ・進路実現	・学校行事を積極的に取りこませる。 ・規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。 ・進路決定に対し妥協せず最後まで努力させる。 ・個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・大きな学校行事がなく生徒が主体的に取り組む機会がなかった。 ・授業への取組や学年全体を通じた活動においては、意欲的かつ積極的に臨んでいた。行事において一部生徒の身だしなみなどに対する意識が欠けていた。その後の指導においては十分なされていた。 ・新入試の導入や変更、コロナなどの影響で、一般入試を待たずに決めたいと考える生徒は多かったが、それでも安易に決めるのではなく自分の第1志望として真剣に考え臨んでいた。合格した後も学習活動にも意欲的で次の進路に向けての準備をしている。校舎の工事により落ち着いた学習できる環境が提供できなかったのは残念ではあった。 ・進路面談は各担任とも積極的に行っていた。また、共通テストに変わることでの対応やそれに伴った進路検討など進路指導部からも多くの情報を提供していただき活用して行えた。
その他	・中村高校の特色づくり ・職員の健康管理	・国際理解コースを充実させる。 ・勤務時間を適正に管理する。 ・業務の効率化を図る	・学校設定科目のグローバルスタディーズ(1年)が新たに設置された。内容としては、ベトナム研修旅行の実施及び事前・事後指導が主たる内容であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため研修そのものが中止になった。また、臨時休業期間のため年間計画の大幅な見直しを行いながら、ベトナム研修旅行に代わる代替行事を企画し、成功させた。 ・教職員の在校時間記録を衛生委員会に報告することにより、時間外労働の把握を行うことができた。 ・分掌のグループ化を実現したが、協力体制が全グループの中で確立するまでには至らなかった。
総合評価		・学習指導では、臨時休業中に課題や動画配信など迅速に対応することができた。 ・生徒指導では、段階的指導により指導件数も減少した。 ・進路指導では、コロナ禍の中で模擬試験を校内で実施し、生徒の進路実現に向けて支援した。	